

## 令和2年度 福井県立若狭高等学校(定時制) 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習指導	自主的に学習するための課題を提供し、学習習慣の確立および基礎学力の向上をはかる。	基礎学力を高めるための学習課題を教員側が提供することについては、おおむね達成できているので、引き続き改良を加えながら提供を続けていかなければならない。 自主的に学習課題に取り組んでそれを提出することについては、90%以上の生徒が「おおむね達成できた」と答えており、実際に、みな真面目に課題に取り組んで成果を上げている。 また、家庭学習においては、どの保護者も、「課題にしっかり取り組んだ」もしくは「おおむね取り組んだ」と回答しているため、家庭学習の習慣もついていることがうかがえる。	今回の調査においては、課題の提供も提出もうまくできており、それが学習成績として結果にも表れているが、社会情勢によっては通常の学習ができない場合もあるので、どのような状況になっても学習を進めていけるよう、学習方法を考えて準備していかなければならない。 家庭とも引き続き連携を深めていかなければならないが、新しい学習機器も導入されているので、それが活用できるように、学校と家庭の双方で働きかけていかなければならない。
	アクティブ・ラーニング型の授業および探究的な学習を通して、学習に対する興味・関心・意欲を高める。	アクティブラーニング型の授業・探究的な学習を取り入れた授業の実践については、70%以上の教員が「ある程度以上実施できている」と答えているので、目標はおおむね達成できているようである。 その結果として、生徒も8割が「グループ学習等で、学習に関する興味・関心・意欲がある程度以上高まった」と答えているので、一定の成果は上がっているようである。	昨今の情勢を鑑みれば、密集・密接を避ける工夫は必要であるが、どの教科においても、グループ学習等を適宜取り入れて、学習効果を上げる工夫は継続していかなければならない。 また、グループ学習というような形態にだけこだわることなく、生徒の真の積極性が出るような学習方法があれば、それも取り入れていく研究を進めていかなければならない。
生徒指導	生徒会行事に主体的に取り組ませることを通じて、学校生活の充実を目指す。	生徒会行事の取り組みについて、進んで取り組むことができたという生徒がA+Bで90%であり、目標達成はもとより、少人数でそれぞれが責任を持って行事に取り組むことができた。 また、活動が充実していると感じている生徒も、A+Bで95%であり、今年度も充実した内容を提供することができた。生徒が楽しみながら、安心して学校生活に取り組めるような環境づくりに全職員で努めたことが効果的だった。 今後も、少人数でどのような活動ができるか臨機応変に対応しながら、一人ひとりが充実できる学校行事となるような様々なアプローチや指導を行っていくことが課題である。	引き続き、生徒会執行部の活動を通してリーダーシップを持った生徒を育てること、生徒が積極的に活動に参加できるような雰囲気や環境を作っていくことに努めていく。 来年度もコロナ禍で活動が制限されることが予想される。本年度の取り組みを踏まえ、新たな工夫を取り入れながら、活動準備等に余裕を持って取り組ませる。また、役割分担を明確にして責任感を持たせ、充実した活動ができるようにする。 生徒が興味・関心を強く持てるような内容で行事を企画運営していく。また学校生活の充実や自律する力の向上を目指し、日常生活の中での取組も企画していく。
	講演会やボランティア活動を通して、自分自身の生き方や自他の尊重について考えさせる。	講演会やボランティアへの満足度は、保護者がA+Bで94.4%、また生徒の満足度もA+Bで90%とたいへん高い数値を達成することができた。今年度は新型コロナウイルスの影響により、外部講師を招聘した講演会や対外的なボランティア活動ができなかったが、「自他の尊重」について考えさせたり、校内でできるボランティアを体験したりすることで生徒が学ぶことは多かった。 社会状況が大きく変化している今こそ、効果的な活動を通して自身の生き方をみつめ、自他を尊重する態度を身につけることが求められている。	引き続き、自他共に大切にし、尊重する態度を育てることを目標にしていきたい。 ボランティア活動については、各生徒の体験内容を共有できる機会を設け、活動の意義について確認できるようにする。また、各ボランティア関係者と連絡を取り合い、生徒への効果的な助言を得られるようにする。 自身の生き方について考えさせるような講演会や活動についても今後企画していきたい。
進路指導	進路に関する行事を通して職業意識の啓発に努め、自らの進路について考えさせる。	11月に1・2年生の主体的に進路選択をする能力を育成するために、進路ガイダンスを実施した。前半は進学希望者は専門学校等の方に来校いただき分野別に説明をしていただいた。就職希望者には就職講話をしていただいた。後半はビジネスマナー講座に全員で参加した。 年度末の生徒アンケートでは、自分の進路について考えるようになった生徒は、A+Bで目標を超える90%であった。ガイダンス直後のA+Bの値が100%であることを考えると、生徒の進路意識をどのように継続させるかが課題である。保護者アンケートでは満足度が83.3%と高い数値となった。	例年、進路ガイダンスを6月、11月に実施しているのであるが、本年度は新型コロナウイルスの影響ため11月に1回しか行えなかった。1・2年生に対しては2回実施することで進路選択に活かせるかと考える。3・4年生では今後も実践的な内容にすることによって、生徒の就職活動が充実するように支援したいと考えている。担任教諭、外部機関と連携しながら、生徒の実態に合わせてガイダンスの内容を適宜検討しながら進めていきたい。 よりきめ細やかに進路指導をするために、昨年度より実施した1・2年生対象の分野別進路ガイダンスは、生徒・教員ともに高評価を得ている。次年度も、生徒の進路希望に配慮しながら、職業理解が深まるように工夫し、充実した行事としていきたい。
	将来に役立つ資格の取得を目標とし、少なくとも1つの資格に挑戦する。	総合的な学習の時間を利用して、全学年生徒が「日本語検定」受験に向けての学習に取り組んだ。合格率は、5級（1年）100%、4級（2年）100%、3級（3・4年）28.6%であった。問題のレベルが上がる3級の合格率が低かったため、生徒の学力に配慮した学習方法を考える必要がある。	資格取得に対する意欲の高い生徒が増えてきている。生徒の取り組み状況も良好であり、レベルの高い受験級の合格率を上げるために、互いに学び合う学習環境を継続していきたい。また、漢字検定や英語検定に進んで取り組んでいる生徒もいる。今後も継続して受験を促していきたい。